



緩和医療の 導入時期について

抗がん剤治療に伴う痛みや気だるさ、息苦しさ……これらの症状を楽にするための緩和医療の依頼を、病院から受けることが多くなりました。

緩和医療というと、従

来は病院での抗がん剤治療や放射線治療、外科治療を終えた方がほとんどでした。

ところが最近では、そういった治療を受けていても早期に緩和医療を導入したほうが患者さんの日常生活の活動度が改善すると認められてきています。ある報告では、その改善効果は4人に1人に見られるとのことでした。

こうした研究が進むなかで、早めに在宅医療を

導入することも多くなってきました。

先日は、こんなことがありました。抗がん剤治療を病院の外来通院でなさっている方を紹介されたのですが、話をお聞きすると、「最近息が苦しくて仕方がない」とのことです。そこで、その場で通常の室内歩行をしてみようと思いました。すると、すぐに肩でゼイゼイと呼吸を

しだし、息苦しそうな感じがします。慌てて酸素状態を計測したところ、著明に酸素濃度の低下を認めることができました。

この例は、在宅医療の一つの利点を示唆しています。もしこの方が入院しながら治療を続けてい

たなら、酸素吸入の必要性を見抜けなかったかもしれない。

この方のケースでは、室内歩行後、たけでも酸素を吸入する方針とし、日常生活の改善を図りました。

このように、日常生活の不具合を早期に発見して改善することができるのは、在宅医療ならではの利点だと思います。



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
(訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応：午前 9:00～午後 6:00
 ■定休日：土日（祝日は診療）
 ■訪問地域：西東京市全域、東久留米・新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック